

2022（令和4）年度（確定版）
第2期知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況

○第2期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	結果			関連する主な方策
		2021(R3)	2022(R4)	~2027(R9)	
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を108頭以下とする。 (注4、5)	18頭以下 (単年目安)	11頭	16頭	…	No.1 誘引物の除去、No.3 侵入防止用電気柵の設置・管理、No.4 住宅地周辺の草刈り問題個体の把握、No.7 非致命的追い払い、No.8 捕獲
	108頭以下 (累計)				
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故(利用者等)をゼロとする。(注6)	0件	0件	0件	…	No.1 誘引物の除去、No.3 侵入防止用電気柵の整備、No.4 居住地周辺の草刈り、No.8 捕獲、No.24 情報提供・注意喚起、No.25 利用自粛要請、No.26 施設閉鎖、No.27.緊急時の避難誘導
	(累計)				
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状(第1期計画期間の年平均値。以下同じ。)以下に抑制する。(注7)	19件以下 (単年目安)	49件	28件	…	No.17 普及啓発、No.19 利用者側の問題行動に対する指導、No.20 アクセスコントロール
	114件以下 (累計)				
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	11件以下 (単年目安)	20件	6件	…	No.11 ゴミや食料の管理に関する指導、No.3 侵入防止用電気柵の普及・設置促進、No.38 町広報誌・メール等による注意喚起
	66件以下 (累計)				
⑤市街地(ゾーン4)への出没件数を現状以下に抑制する。	95件以下 (単年目安)	121件	76件	…	No.1 誘引物の除去、No.3 侵入防止用電気柵の設置・管理、No.4 住宅地周辺の草刈り、No.7 非致命的追い払い、No.8 捕獲
	570件以下 (累計)				
⑥斜里町における農業被害面積を現状から5%削減する。 (注8、9)	536a以下 (6年平均)	365a	510a	…	No.34 農地への電気柵普及・設置促進、No.29 地元猟友会・地域住民との情報交換、No.8 捕獲
⑦漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	2~3件以下 (単年目安)	0件	1件	…	No.34 番屋への電気柵普及・設置促進、No.7 非致命的追い払い、No.8 捕獲
	16件以下 (累計)				
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や利用者に現状以上に浸透させる。	-	-	-	-	No.35・36 地域住民や利用者への普及啓発

(注4) 当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

(注5) 本計画で定めたメスヒグマの人為的な死亡総数の目安は、北海道ヒグマ管理計画において定められている、道東・宗谷地域東部(阿寒白糠以東)の「計画期間総メス捕獲上限数」に含まれる。

(注6) 危険な場面に立ち会うことのできる捕獲従事者は、地域住民や利用者とは性質が異なるため、捕獲従事者の人身事故は別途集計を行う。

(注7) 「9. 管理の方策」において問題行動と位置付ける行為。

(注8) 本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画の目標(令和5年度に令和2年度比5%削減)を参照したもの。

(注9) 標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っておらず、鳥獣被害防止計画においても農業被害に関する目標を明確に設定していない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について、2022（令和4）年度における状況を以下に記した。

目標① 計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を108頭以下とする。

- ・3町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが16頭（斜里町7頭、羅臼町7頭、標津町2頭）、オスが30頭（斜里町12頭、羅臼町11頭、標津町7頭）であった（表1）。なお、メスヒグマの人為死亡位置は、図1に示す。
- ・人為死亡個体の死亡直前の行動段階を表2に示す。行動段階1が最も多く23頭、次いで行動段階2（農作物加害）が13頭であった。
- ・羅臼町で5月31日に、車両にすり寄る、漁業用のテントに近づく等の問題行動をとっていた行動段階3の個体が捕殺された。
- ・斜里町で2023年3月17日にウトロ市街地（ゾーン4）に侵入したオス亜成獣の捕殺があった。斜里町では3月1日にヒグマの冬眠明けが確認されており、例年よりも早い状況であった。

表1. 2022年度のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	2	0	0	0	0	2
1歳	0	2	0	2	0	0
2歳	1	3	0	1	3	2
3歳以上	4	2	2	9	8	3
小計	7	7	2	12	11	7
合計	16			30		

表2. 2022年度の人為死亡個体の死亡直前の行動段階

行動段階		斜里町	羅臼町	標津町	計
3	人へのつきまとい/攻撃	0	1(1)	0	1(1)
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0	0
2	農作物加害	13(5)	0	0	13(5)
1+	過度人なれ	1(0)	0	1(0)	2(0)
1	人なれ	2(1)	17(6)	4(1)	23(8)
0	警戒心強い	0	0	0	0
判定不能	狩猟捕獲など	3(1)	0	4(1)	7(2)
計		19(7)	18(7)	9(2)	46(16)

※判定不能は人材育成捕獲が1頭、狩猟が6件によるもの

※()内はメス頭数を示す

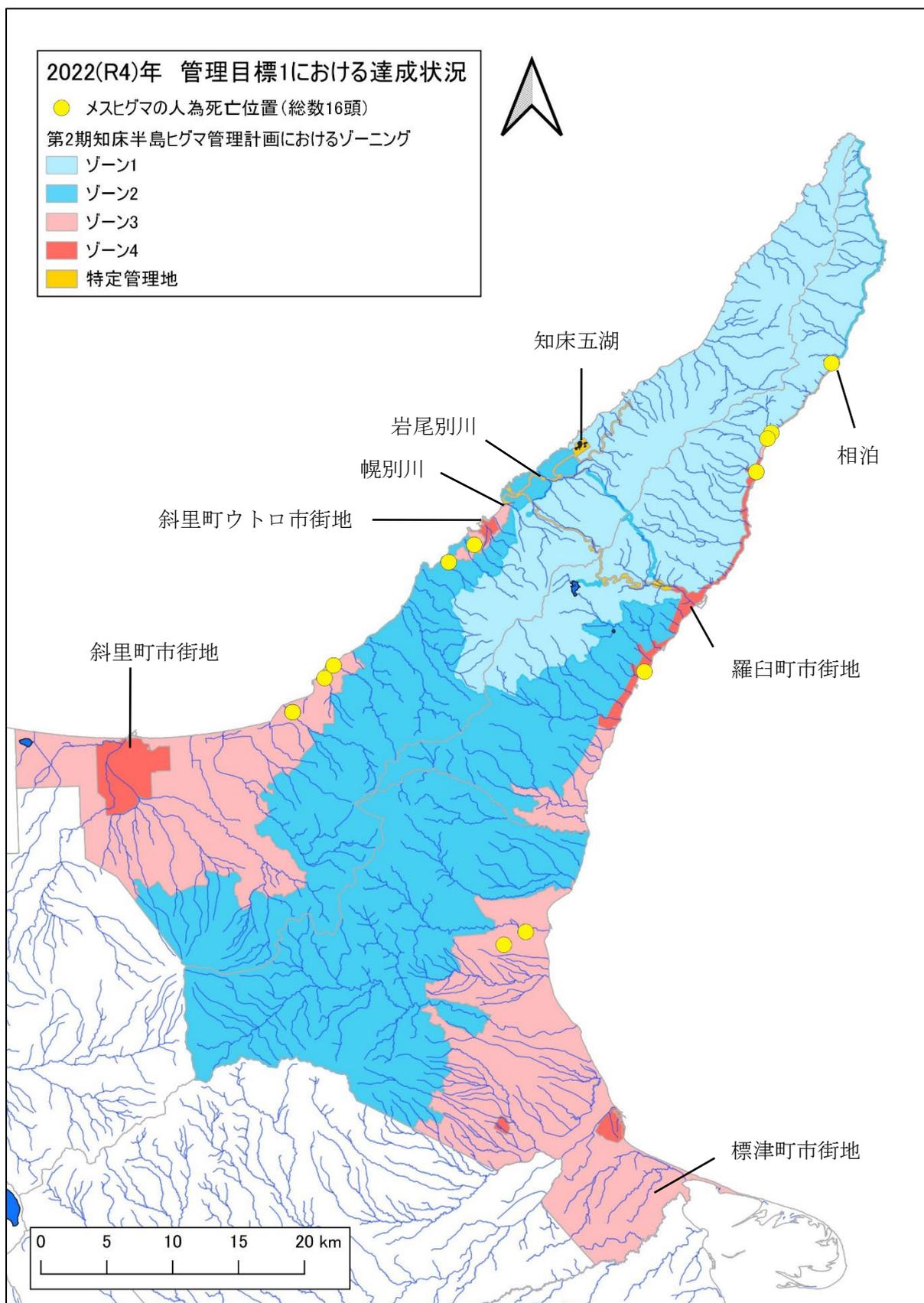


図1. 2022(R4)年度におけるメスヒグマの人為死亡位置

目標② 計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。

- ・ヒグマによる人身事故は発生しなかった。

目標③ 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 96 件）に抑制する。

- ・利用者の問題行動に起因する危険事例は計 28 件（斜里町 26 件、羅臼町 2 件）発生した（図 2）。標津町では発生しなかった。
- ・行為別では、撮影・観察が最も多く、その約 8 割が国立公園内の幌別・岩尾別地区で発生していた（図 3）。

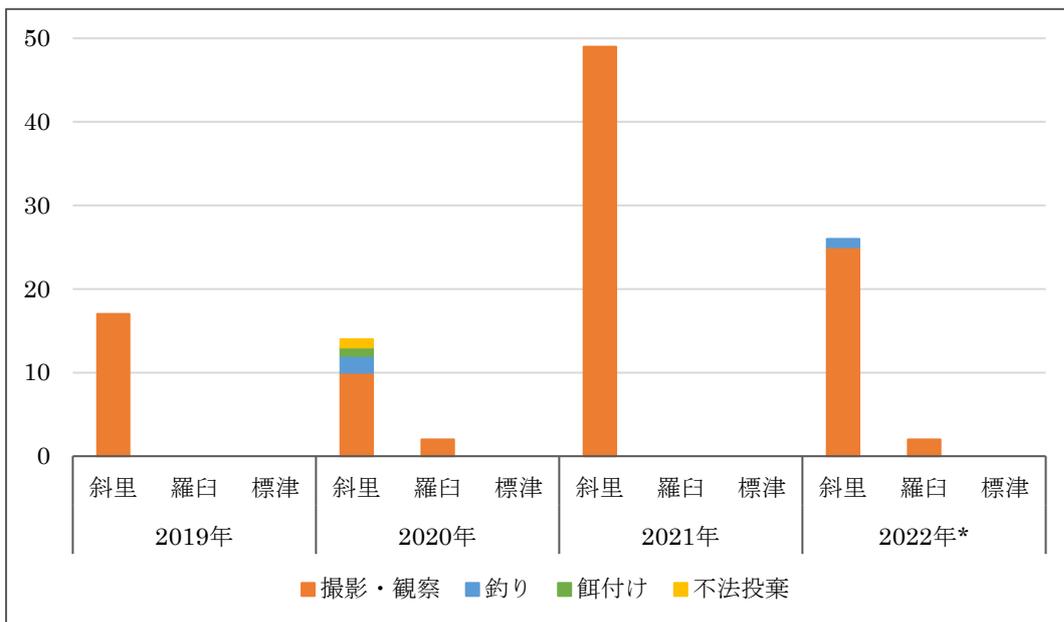


図 2. 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数の推移 (2019～2022 年)

表 3. 2022 年度に発生した利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細（一部抜粋）

No.	日付・場所	状況概要
1	5月4日 斜里町	岩尾別地区の道路沿いに出没した親子グマを複数名の利用者が取り囲み、撮影する状況が発生した。
2	5月6日 斜里町	岩尾別地区の道路沿いに出没した親子グマを距離10mの位置から撮影する利用者がいた。
3	7月20日 斜里町	岩尾別地区の道路沿いに出没した親子グマを多数の利用者が観察・撮影したため、子グマがパニックになり、道路上を鳴きながら走り回る事例が発生。
4	7月24日 斜里町	岩尾別地区の道路沿いに出没した親子グマにバイクから降りて接近する利用者がいた。
5	8月13日 斜里町	オチカバケ川河口にヒグマが出没し、釣り人 20~30 人が遭遇。ヒグマは釣り人が投棄した釣り餌（サンマの切り身）を食べた。

No.	日付・場所	状況概要
6	8月30日 羅臼町	知床峠付近の道路沿いに出没したヒグマを近距離で撮影する利用者がいたため注意したところ、利用者から恫喝を受ける状況が発生した。
7	10月12日 斜里町	岩尾別川にヒグマが出没し、降車して撮影する利用者が多数いた。注意しても車両に戻らず、撮影を続ける状況が発生した。
8	10月15日 羅臼町	知床横断道路に出没したヒグマを降車して近距離で撮影する利用者がいた。注意すると車両に戻ったものの、車両を移動させてヒグマに横付けし、撮影を続ける状況が発生した。

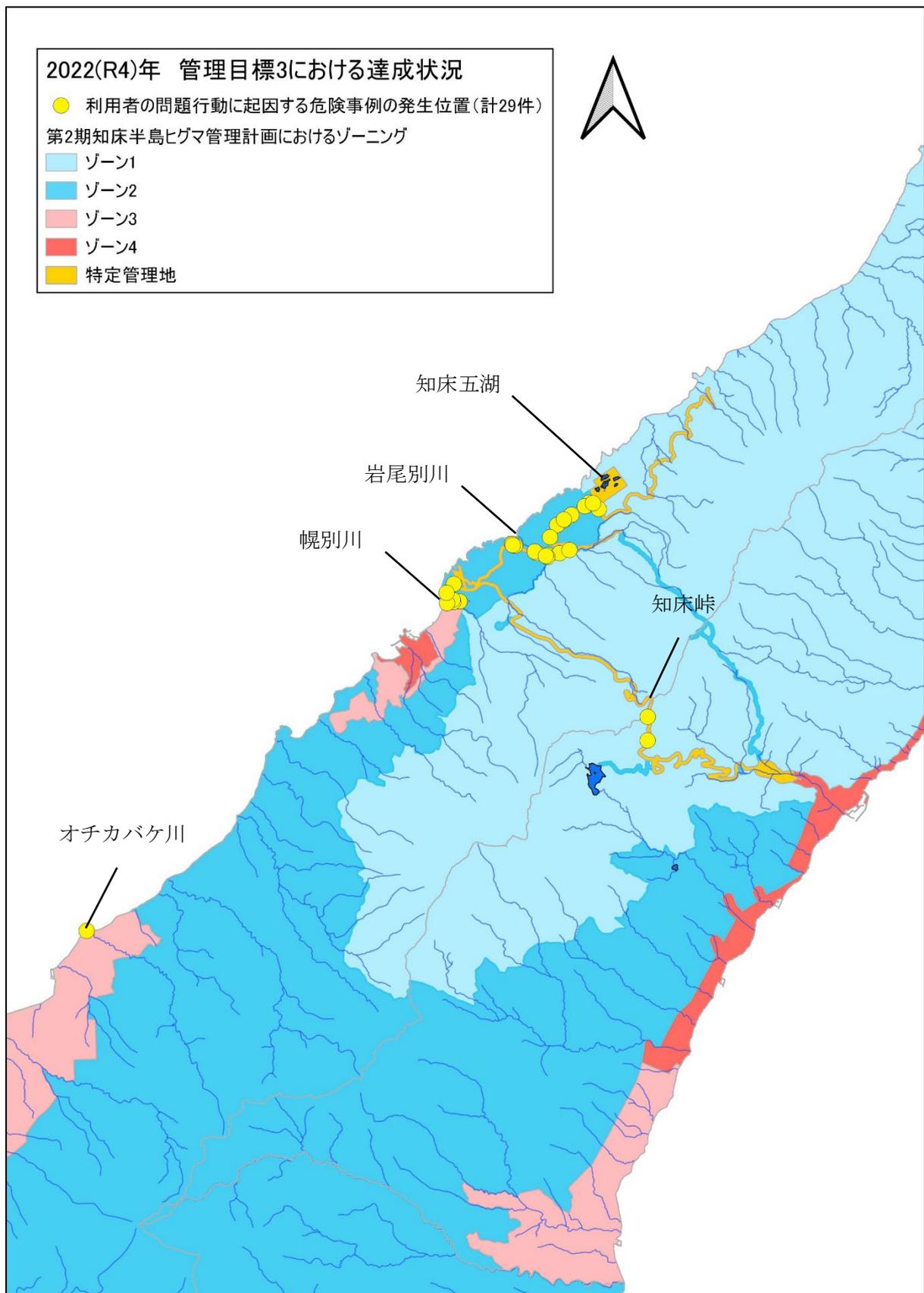


図 3. 2022 (R4) 年度における利用者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

目標④ 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 57 件）に抑制する。

- ・地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は斜里町で 6 件発生した（図 4、5）。羅臼町および標津町では発生しなかった。

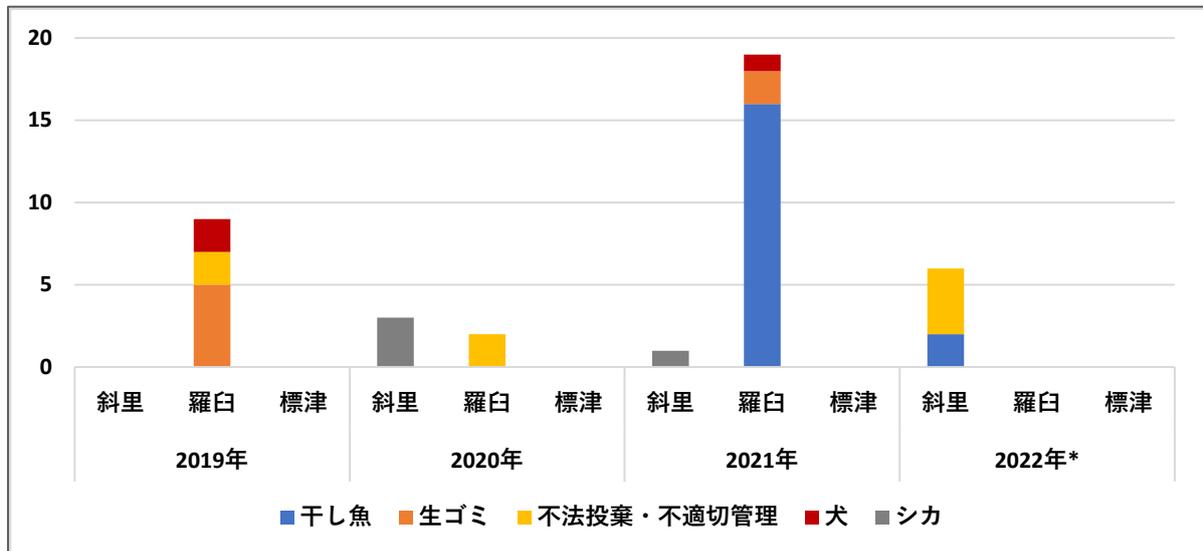


図 4. 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数の推移 (2019～2022 年)

表 4. 2022 年度に発生した地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	5月30日 斜里町	幌別川河口付近に置かれたフレコンパックの中にある食品関係ゴミを単独メス成獣サイズのヒグマがあさっていた。
2	6月3日 斜里町	幌別川河口付近に置かれたフレコンパックの中にある食品関係ゴミを単独メス成獣サイズのヒグマが再びあさっていた。
3	9月4日 斜里町	夜間に屋外で干していた魚をヒグマに奪われた。
4	9月24日 斜里町	幌別川河口付近に残置されたフレコンパックをヒグマが荒そうとしていた。
5	9月26日 斜里町	幌別川河口付近に置かれたフレコンパックをヒグマが荒らす。
6	10月19日 斜里町	夜間に屋外に干していた魚をヒグマに奪われた (2回目)。

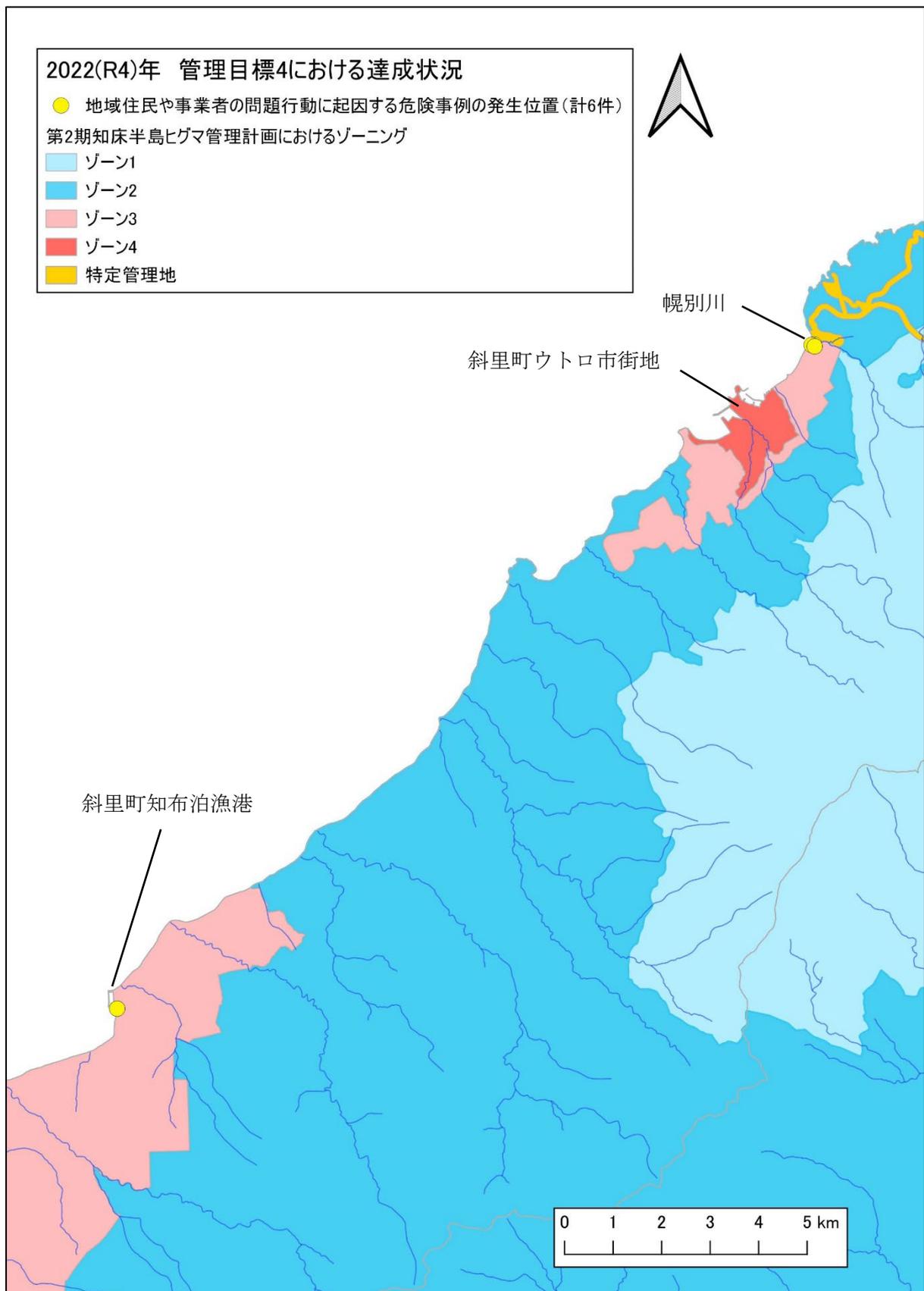


図5. 2022(R4)年度における地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

- 目標⑤ 市街地（ゾーン4）への出没件数を現状以下（累計475件）に抑制する。
- ・市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数は76件（斜里町4件、羅臼町71件、標津町1件）であった。市街地（ゾーン4）への出没位置を図6～9に示す。

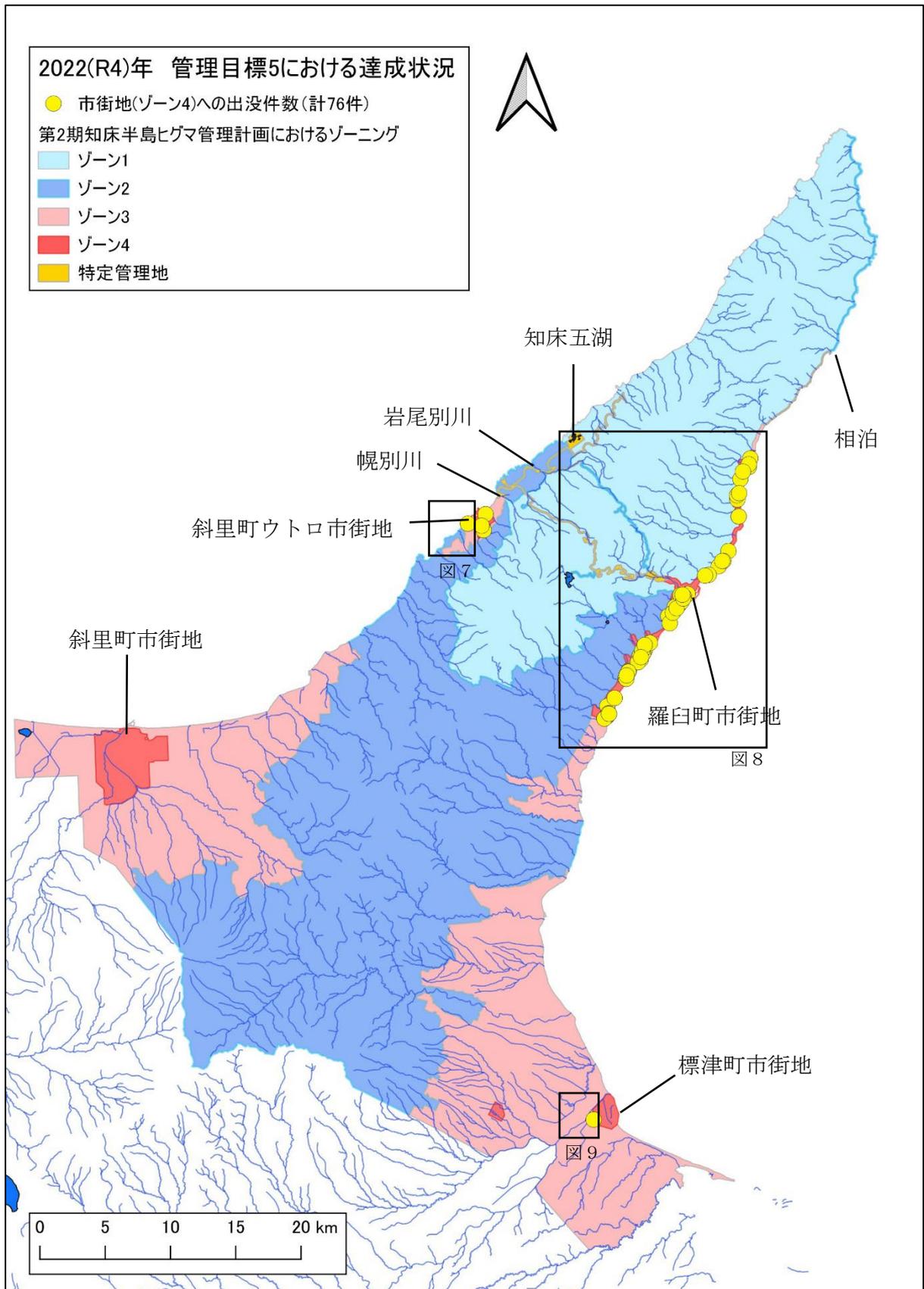


図6. 2022(R4)年度における市街地（ゾーン4）のヒグマ出没位置

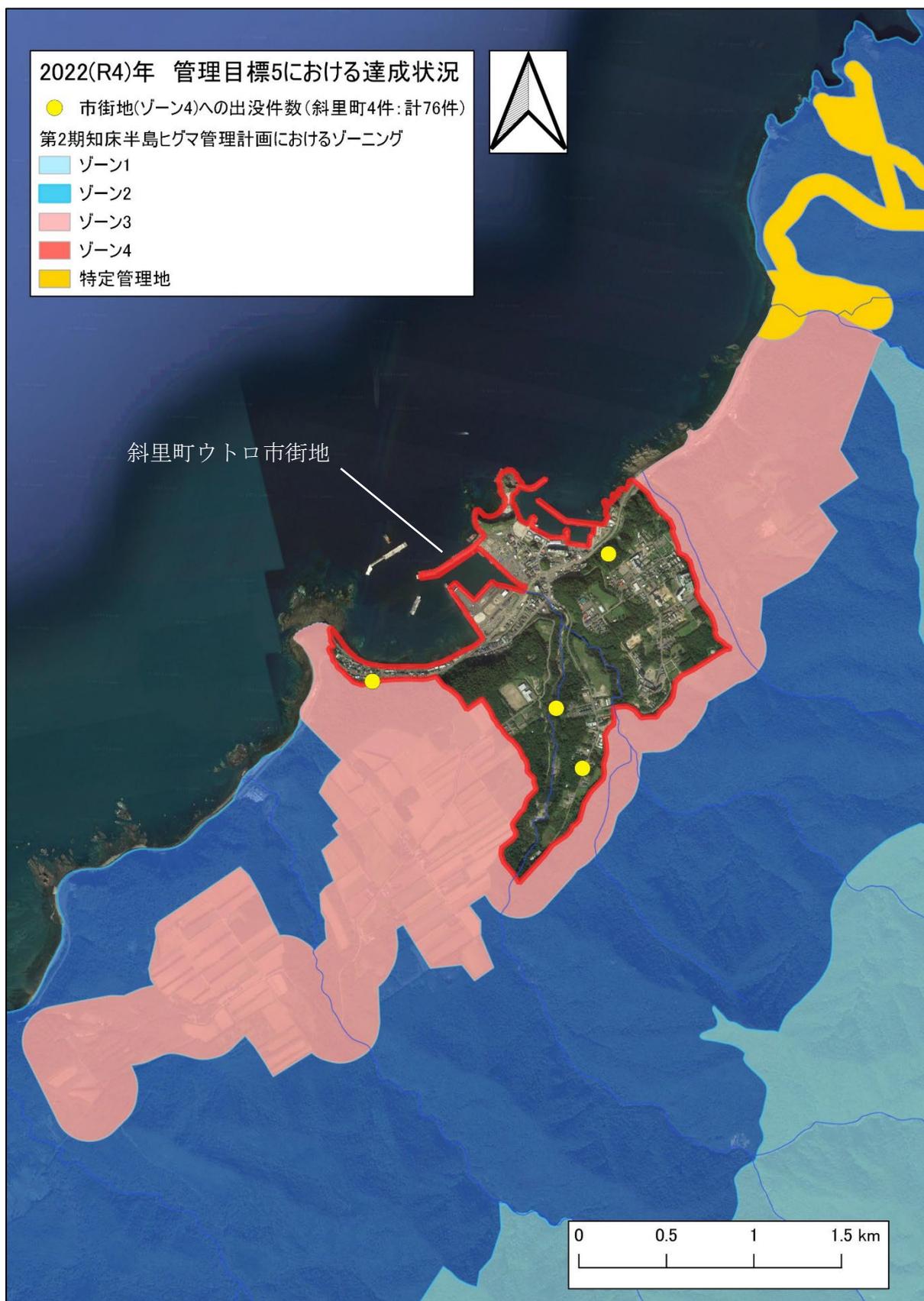


図7. 2022(R4)年度における市街地(ゾーン4)への出沒位置(ウトロ市街地拡大図)

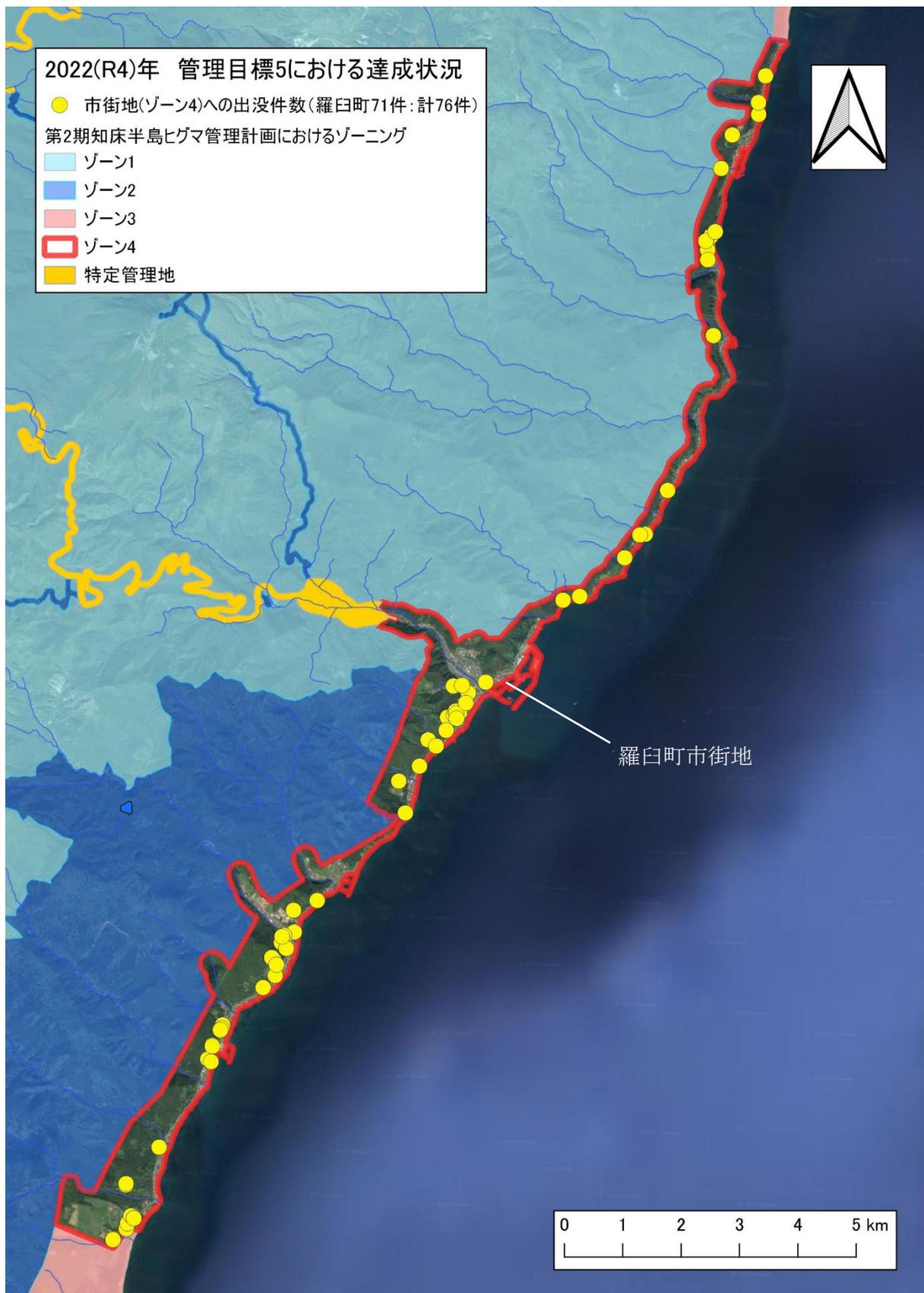


図8. 2022(R4)年度における市街地(ゾーン4)への出没位置(羅臼町市街地拡大図)

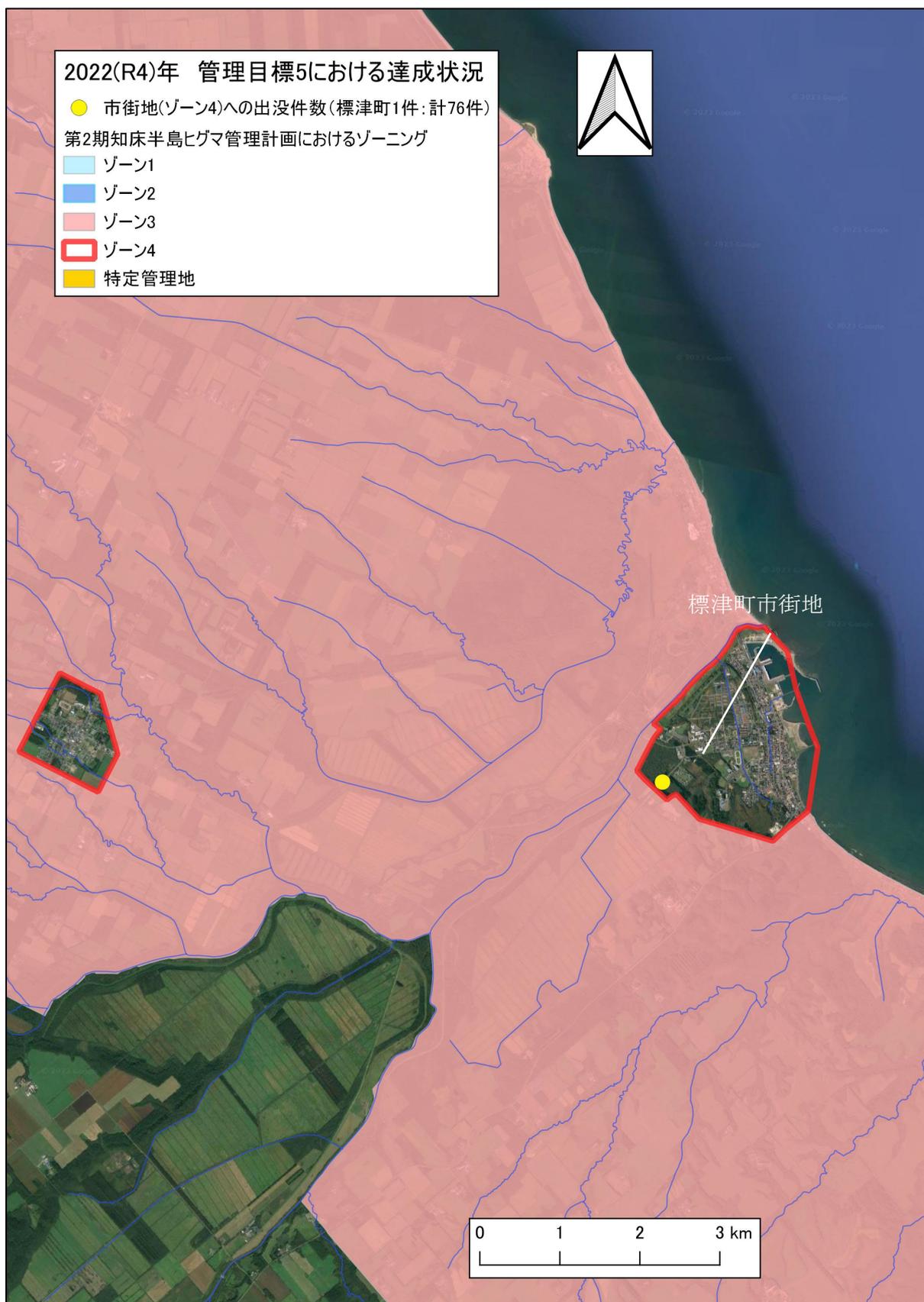


図9. 2022(R4)年度における市街地(ゾーン4)への出没位置(標津町市街地拡大図)

- ・過去5年間の市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数を表5に示す。3町における市街地（ゾーン4）への出没件数は、いずれも前年と比較して減少した。

表5. 町別の市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数（2018～2022年）

	2018	2019	2020	2021	2022	計
斜里町	6	5	4	8	4	27
羅臼町	78	124	32	108	71	413
標津町	0	7	2	5	1	15
計	84	136	38	121	76	455

目標⑥ 斜里町における被害面積を現状（536a（5年平均））から5%削減する。

- ・斜里町の農業被害額及び被害面積は510a（6,409千円）であった。
- ・内訳は甜菜が300a（4,226千円）、秋小麦が200a（2,080千円）、澁原馬鈴薯が10a（103千円）であった。
- ・農業被害面積を地区別で見ると、朱円東が最も多く240a、次いで越川・富士が120a、東部が100aであった（図10）。

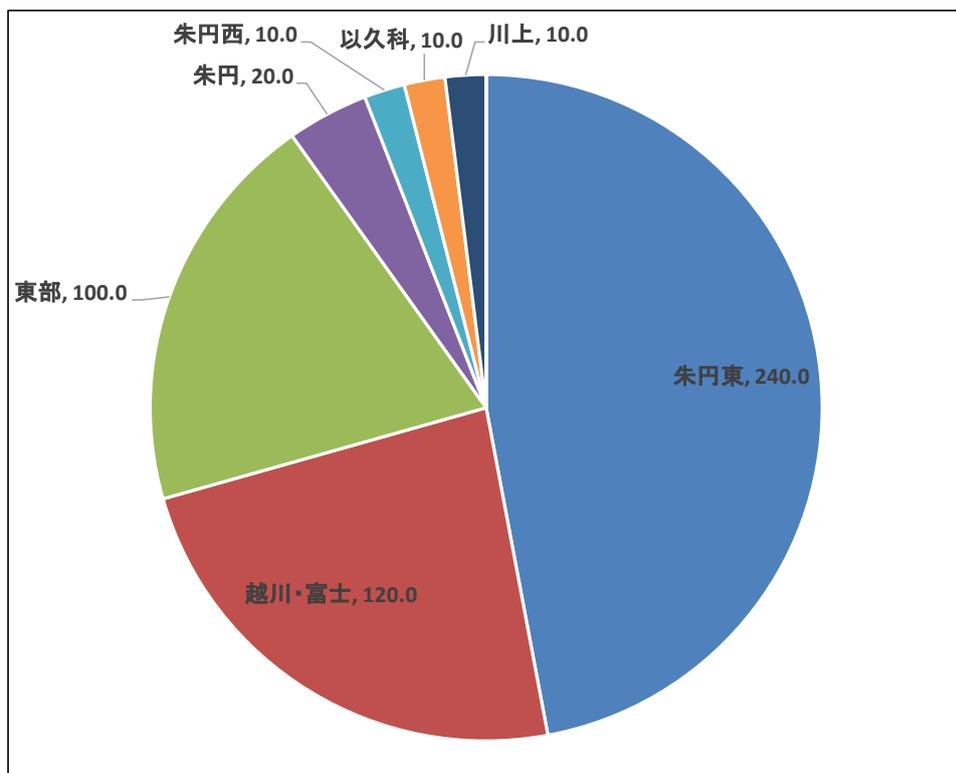


図10. 2022年度における斜里町における地区ごとの農業被害面積

目標⑦ 漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を現状以下（13件）に抑制する。

・漁業活動に起因する危険事例が羅臼町で1件発生した（図11）。

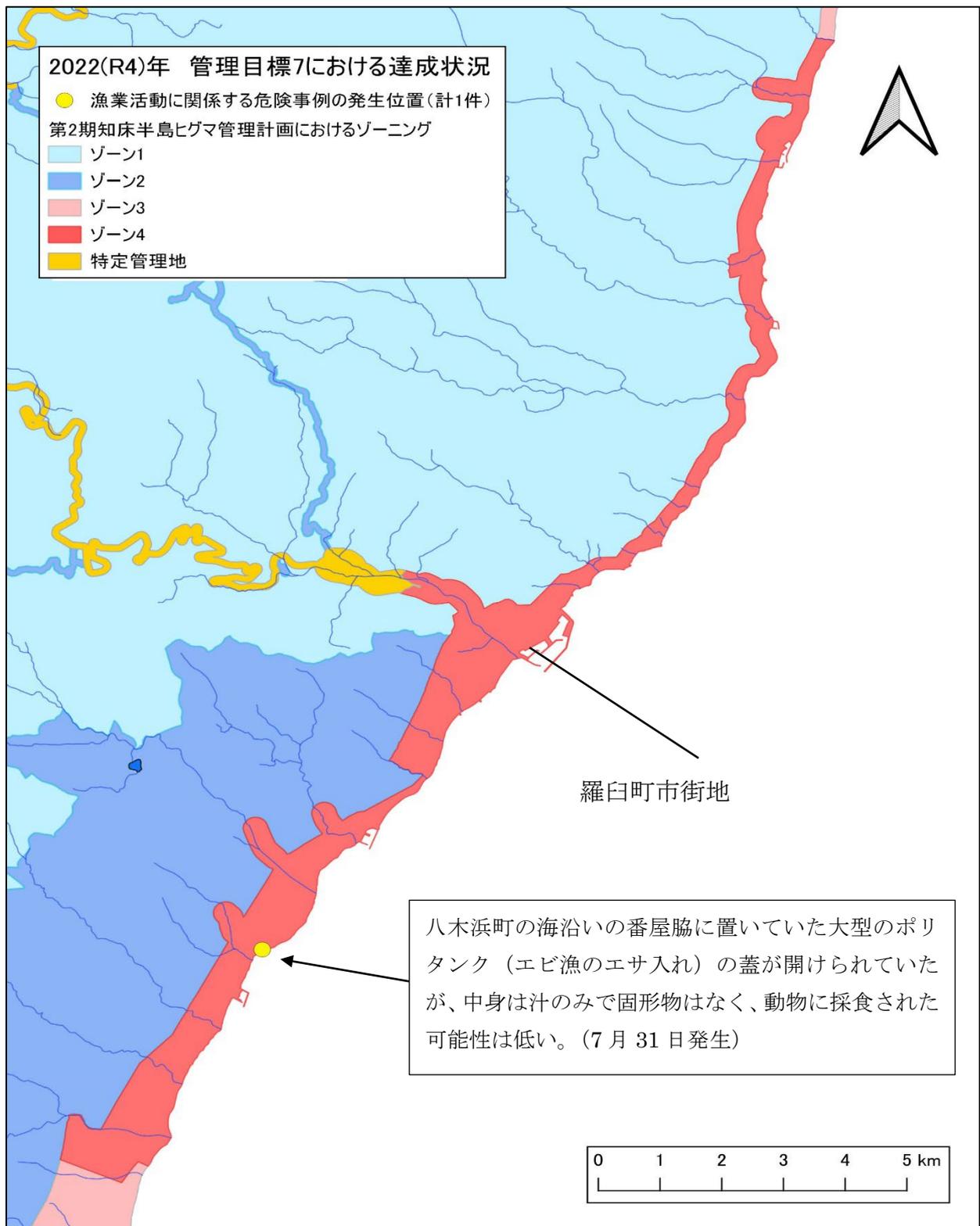


図11. 2022(R4)年度における漁業活動に関する危険事例の発生位置（羅臼町拡大図）

特に留意すべき問題個体について

1) 知床横断道路における問題個体の対応状況

国道 334 号知床横断道路の斜里町側においては、亜成獣クラスのヒグマが車両に接触する事例が 2022 年 10 月以降 8 件確認され、うち 2 件はヒグマが車両のドアミラーを破損させるといった事例が発生した（表 1）。当該個体への対応として、冬期通行止めの国道 334 号線知床横断道路にて当該個体の有害捕獲を実施したが、捕獲には至らなかった（表 6）。

その後の DNA 解析の結果から、2023 年 6 月 8 日に知床横断道路の羅臼町側で有害捕獲されたヒグマが、当該個体である可能性が高いと考えられる。

表 6. 知床横断道路（斜里町）での危険事例の発生状況

発生日時	ヒグマ構成	発生状況
10 月 8 日 12:00	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、ドアミラーを破損させる
10 月 8 日 13:16	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 8 日 13:30	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 8 日 17:30	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 9 日 13:50	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 14 日 12:00	単独亜成獣	車両につかまり立ちをする
10 月 15 日 12:45	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、他車両に威嚇突進をする
10 月 17 日 15:25	単独亜成獣	車両につかまり立ちをし、ドアミラーを破損させる

表 7. 知床横断道路（斜里町）でのヒグマ問題個体の有害捕獲の実施結果

実施日時	実施結果
11 月 8 日 10:00-16:00	捕獲対象の個体と思われるヒグマを確認、条件が揃わず捕獲を見送る
11 月 9 日 10:00-16:00	ヒグマ、痕跡等の確認なし
11 月 10 日 13:00-16:00	ヒグマ、痕跡等の確認なし
11 月 16 日 14:00-16:00	捕獲対象の個体とは別個体のヒグマ 2 頭を確認
11 月 17 日 14:00-16:00	捕獲対象の個体とは別個体と思われるヒグマの痕跡を確認

2) 日の出地区における問題個体の対応状況

斜里町日の出地区において、魚干し小屋の干し魚をヒグマに奪われる被害が 2022 年 9 月から 10 月にかけて 2 件発生した。その後、周辺エリアのビニールハウス内にヒグマが侵入する事例が 2 件、道路工事の作業員が夜間にヒグマと至近距離で遭遇し車内に避難するといった事例が 1 件発生した。また、11 月以降には、周辺エリアのビートの集積場でヒグマによるビートの食害が続いて発生したため、電気柵の設置による被害防止策を進めたが、周辺での被害が継続して発生した(表 8)。なお、同地区では被害のあった現場周辺から採取した糞などの DNA 分析から 2 個体のヒグマが検出されており、複数のヒグマがこれら事例に関与している可能性がある。

当該個体の生存状況については不明だが、冬眠明けの 2023 年 3 月以降、周辺エリアでの被害や当該個体と思われる目撃情報等は確認されていない。

表 8. 斜里町日の出地区におけるヒグマの危険事例及び被害の発生状況

発生日	発生状況
9 月 4 日	屋外の魚干し小屋で干されていた魚がヒグマに奪われる
10 月 19 日	屋外の魚干し小屋で干されていた魚がヒグマに奪われる
10 月 22 日	ビニールハウス内にヒグマが侵入し、置かれていた農作物が荒らされる
10 月 25 日	ビニールハウス内にヒグマが侵入する
11 月 4 日	道路工事の作業員が夜間にヒグマと至近距離で遭遇する
11 月 19 日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11 月 22 日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11 月 22 日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける
11 月 25 日	農地に集積されたビートがヒグマの食害を受ける

<参考>斜里町および羅臼町における人為死亡個体(狩猟・有害捕獲・事故等)の死亡直前の行動段階

*青字はオス,赤字はメスを示す。

*ゾーン・行動段階は、知床半島ヒグマ管理計画に基づく。

2022年					ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
3 人へのつきまとい/攻撃	0	1	0	1								1							
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0	0															
2 農作物加害	13	0	0	13		8	5												
1+ 過度人なれ	1	0	1	2	1														
1 人なれ	2	17	4	23	1		1			7	4	2	2	2					
0 警戒心強い	0	0	0	0															
判定不能 狩猟捕獲など	3	0	4	7				2											
計	19	18	9	46	2	8	7	0	2	7	4	2	2	2	1	0	0	0	0

2021年					ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
3 人身被害	0	0	0	0															
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	3	2	6				1		2	1								
2 農作物加害	11	0	0	11		8	3												
1+ 過度人なれ	1	3	0	4	1					1	1			1					
1 人なれ	4	8	0	12	2	2				5	2		1						
0 警戒心強い	0	0	0	0															
判定不能 わな錯誤捕獲など	2	0	2	4					1										
計	19	14	4	37	5	12	0	2	1	11	2	1	0	0	0	4	1	1	0

2020年					ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
3 人身被害	0	0	0	0															
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	0	0	1			1												
2 農作物加害	5	0	0	5		3	2												
1+ 過度人なれ	0	1	0	1							1								
1 人なれ	0	4	1	5						2	1	1							
0 警戒心強い	0	0	0	0															
判定不能 わな錯誤捕獲など	0	0	2	2															
計	6	5	3	14	0	5	1	0	0	2	2	1	0	0	0	3	2	0	0

2019年					ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
3 人身被害	0	0	0	0															
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	2	1	3			1			1	1								
2 農作物加害	24	0	0	24		15	9												
1+ 過度人なれ	0	6	0	6						4	1	1							
1 人なれ	2	4	2	8	1	1				1	1	1	1						
0 警戒心強い	0	0	0	0															
判定不能 わな錯誤捕獲など	3	1	2	6															
計	29	13	5	47	2	26	0	1	0	9	3	1	0	0	0	3	0	2	0

2018年					ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
行動段階	斜里町	羅臼町	標津町	計	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
3 人身被害	0	0	0	0															
2 非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	6	0	7				1		2	1		1	2					
2 農作物加害	7	0	0	7		3	4												
1+ 過度人なれ	0	1	0	1						1									
1 人なれ	2	6	1	9	1	1				3	3								
0 警戒心強い	0	0	0	0															
判定不能 わな錯誤捕獲など	3	1	3	7			1		1										
計	13	14	4	31	2	8	0	2	1	10	1	1	2	0	0	3	1	1	0

※1件狩猟によるオス成獣の捕獲(行動段階は判定なし)があったが、ゾーン不明のため上記の表には記載していない

<参考>第1期知床半島ヒグマ管理計画 目標の達成状況 (5年間)

○第1期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	結果						目標達成状況	主な対策 ※方策No. の後の「○△×」等については各方策の実施状況を知床ヒグマ対策連絡会議で評価したもの
		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3) 1月末時点		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。(注4)	75頭 (累計)	10頭	21頭	15頭	14頭	3頭	11頭	達成	【平時】 誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い 【方策7(△)】
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	0件 (累計)	0件	1件 (注8)	0件	1件 (注8)	0件	0件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 出没情報の提供、問題個体の捕獲 【方策1(○), 8(△)】
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	12件 (累計)	13件	4件	10件	17件	16件	49件	未達成	【平時】 利用者への普及啓発 【方策9(△), 10(○), 14(○), 23(○), 24(△), S19(△)】 【出没時】 -
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	10件 (累計)	1件	10件	13件	9件	5件	20件	未達成	【平時】 地域住民への普及啓発(情報交換会、学校での普及啓発等) 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 -
⑤市街地(ゾーン4)への出没件数を半減させる。	210件 (累計)	60件	96件	84件	136件	38件	121件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。(注5、6)	4,652千円 523 a (5年平均)	5,524千円 609 a	8,727千円 852 a	5,180千円 557 a	6,127千円 561 a	3,533千円 347 a	4,641千円 365 a (5,642千円、 536 a)	未達成	【平時】 電気柵の整備、農業者向け普及啓発 【方策6(○), 32(○/△/○)】 【出没時】 問題個体の捕獲 【方策8(△)】
⑦漁業活動(特に羅臼側の昆布番屋等)に関係する危険事例の発生件数を半減させる。	2件 (累計)	0件	3件	4件	1件	5件	0件	未達成	【平時】 漁業者向け普及啓発 【方策32(○/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	【平時】 普及啓発 【方策9(△), 12(○), 14(○), 23(○), 32(○/△/○), S19(△)】 【出没時】 -

(注4) 当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

(注5) 本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画(H27-29)より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。

(注6) 標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

(注7) ③~⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。

(注8) ハンターによる人身事故。

2023（令和5）年度（速報版） ヒグマの出没状況および問題個体について

1) ヒグマの出没状況について

3町におけるヒグマの人為死亡数は、7月29日時点で40頭（メス21頭、オス19頭）であり、全てが有害捕獲であった（表1～2）。町別に見ると、斜里町28頭（3月17日の捕獲を含む）、羅臼町8頭、標津町4頭と、斜里町における有害捕獲数が突出して多くなっていた。なお、ヒグマの目撃件数は斜里町で1,059件（昨年991件）、羅臼町で200件（昨年164件）、標津町で53件（昨年59件）であり、斜里と羅臼で目撃件数が増加していた。

斜里町におけるヒグマの人為死亡数の推移を昨年と比較すると、2023年は早い時期からヒグマの有害捕獲が発生し、7/29時点で昨年的人為死亡の総数（計13頭）を超えていた（図1）。本年は、ゾーン4（市街地）や農地へのヒグマの侵入・出没が早い時期から発生しており、特に農地ではヒグマによる被害が継続的に発生していたため、有害捕獲数の増加に繋がったと考えられる。

斜里町側で大量出没年となった2015年と比較しても、本年における捕殺数のペースは大量出没年を上回っており（図2）、さらに本年は、晩夏から秋季に重要な餌資源となるハイマツ球果・ミズナラ堅果が不作となる可能性があり、サケマスも不漁年と予測されているため、今後の動向を注視する必要がある。

また、過去30年近くの斜里町における有害捕獲数の推移を整理すると、有害捕獲数は2004年辺りから右肩上がりが増加したのち、2015年以降は高止まりを示しており、農地等に出没する問題個体の再生産が現状の捕獲圧と釣り合っているか、問題個体の再生産が現状の捕獲圧を上回っていると考えられる（図3）。近年の遺伝子分析に基づく血縁関係の把握によって、斜里町で特に大きな問題となっている農地におけるヒグマの出没や被害の発生は、主に農地周辺で生まれ育っている個体に起因していることが明らかとなっている。今後は、引き続き電気柵等の普及啓発を進めるとともに、問題個体だけではなく、農地周辺（ゾーン3の一部エリア）に生息するヒグマに対して捕獲圧を強化する等、対策の検討が必要である。

表1. 2023年7月29日時点におけるヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	2	0	1	1	0	0
1歳	2	1	0	5	0	0
2歳	0	1	0	3	0	0
3歳以上	8	4	2	7	2	1
小計	12	6	3	16	2	1
合計	21			19		

※斜里町のオス3歳以上のうち、1頭は3月17日にウトロ市街地に侵入したため捕殺した個体

表 2. 人為死亡個体の死亡直前の行動段階

2023年(7月29日時点)		斜里町	羅臼町	標津町	計
3	人身被害等	0	1	0	1
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0	0
2	農作物加害	24	0	0	24
1+	過度人なれ	3	0	4	7
1	人なれ	1※	7	0	8
0	警戒心強い	0	0	0	0
判定不能	わな錯誤捕獲など	0	0	0	0
計		28	8	4	40

※3月17日市街地侵入個体

ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					ゾーン区分(標津町)				
4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1	4	3	特定	2	1
									1					
	12	12												
2	1										1	3		
1					1	2	1	1	2					
3	25	0	0	0	3	2	2	1	0		4			

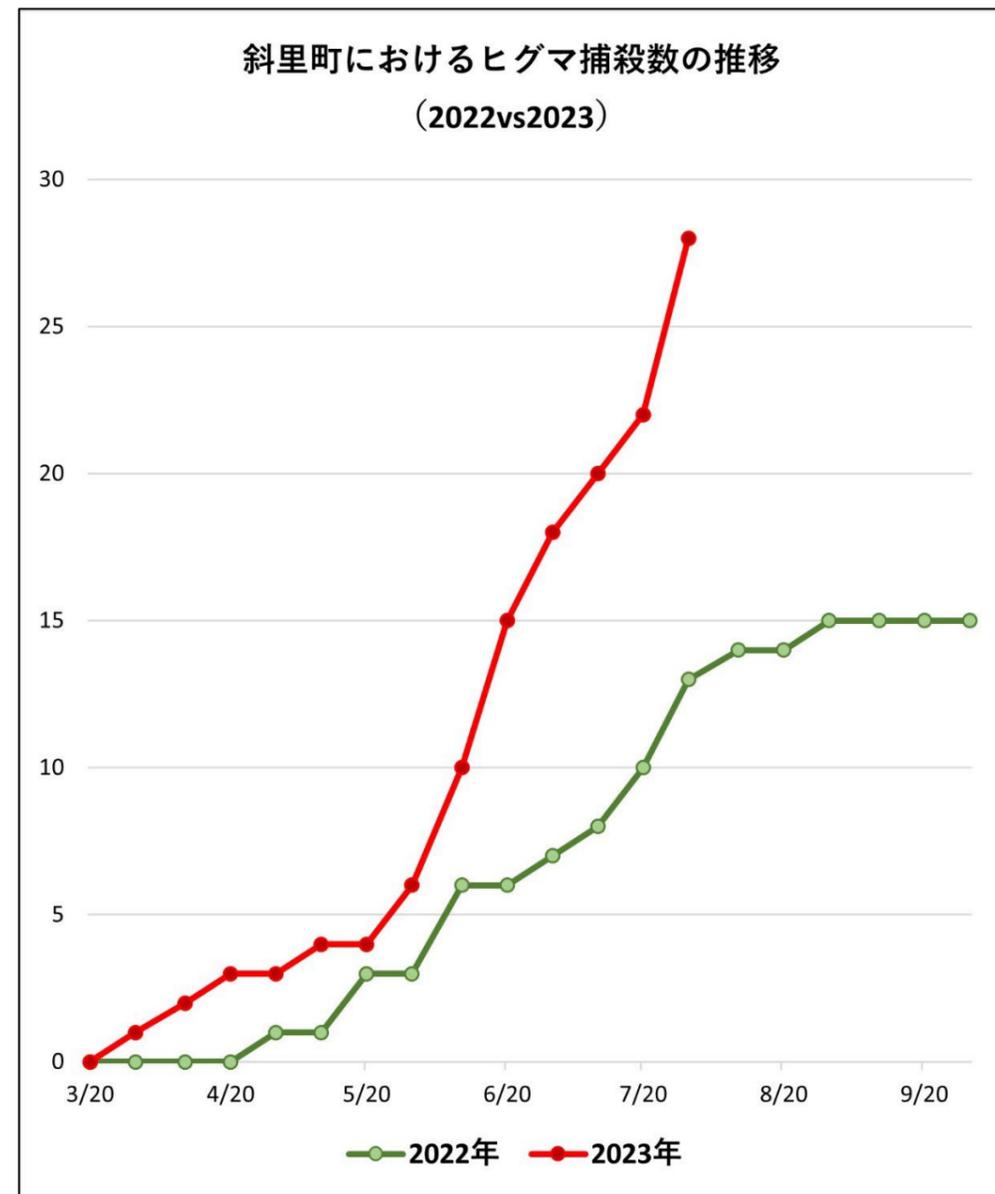


図 1. 斜里町におけるヒグマの捕殺数の比較 (2022年と2023年)

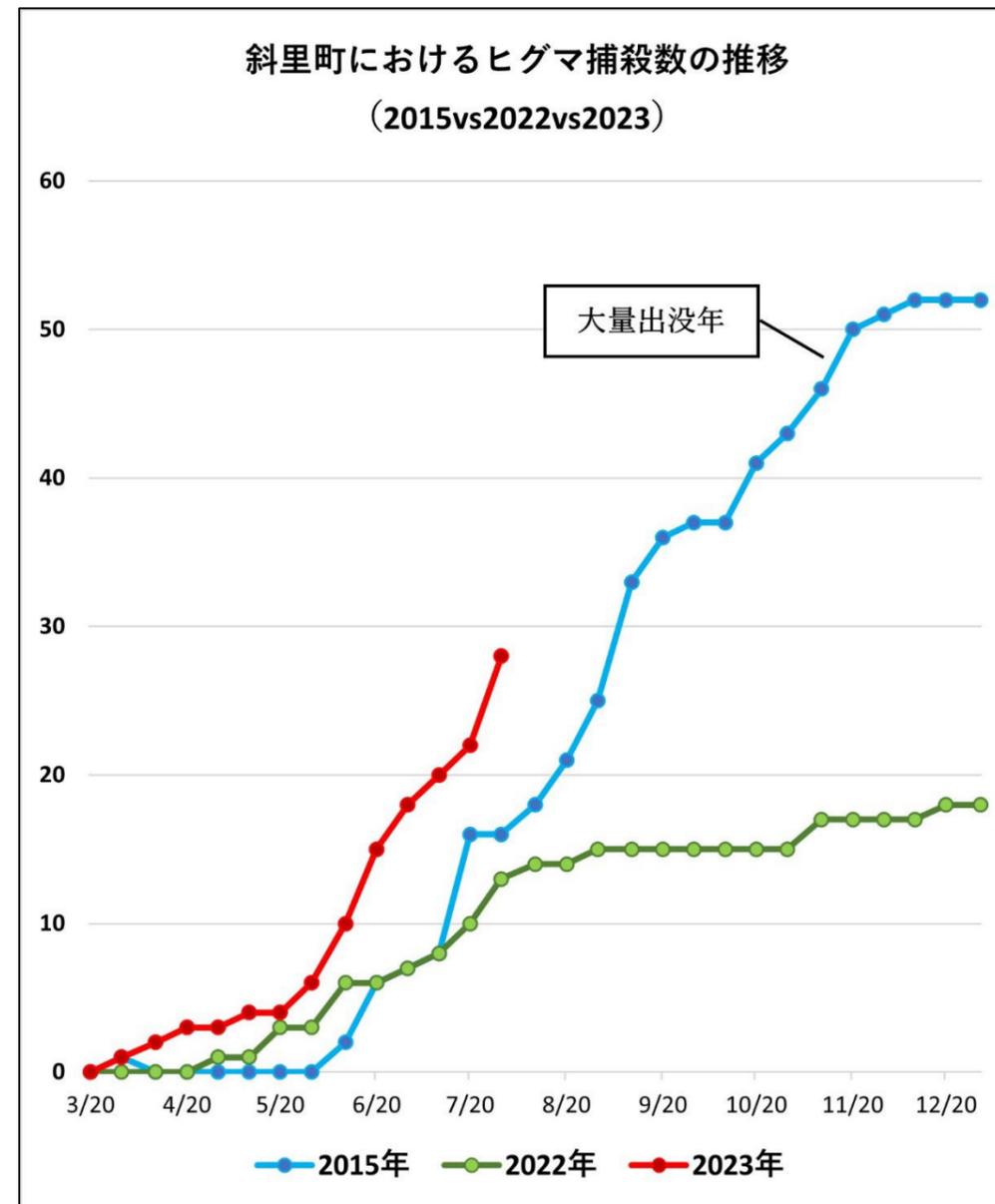


図 2. 斜里町におけるヒグマの捕殺数の比較 (2015年、2022年、2023年)

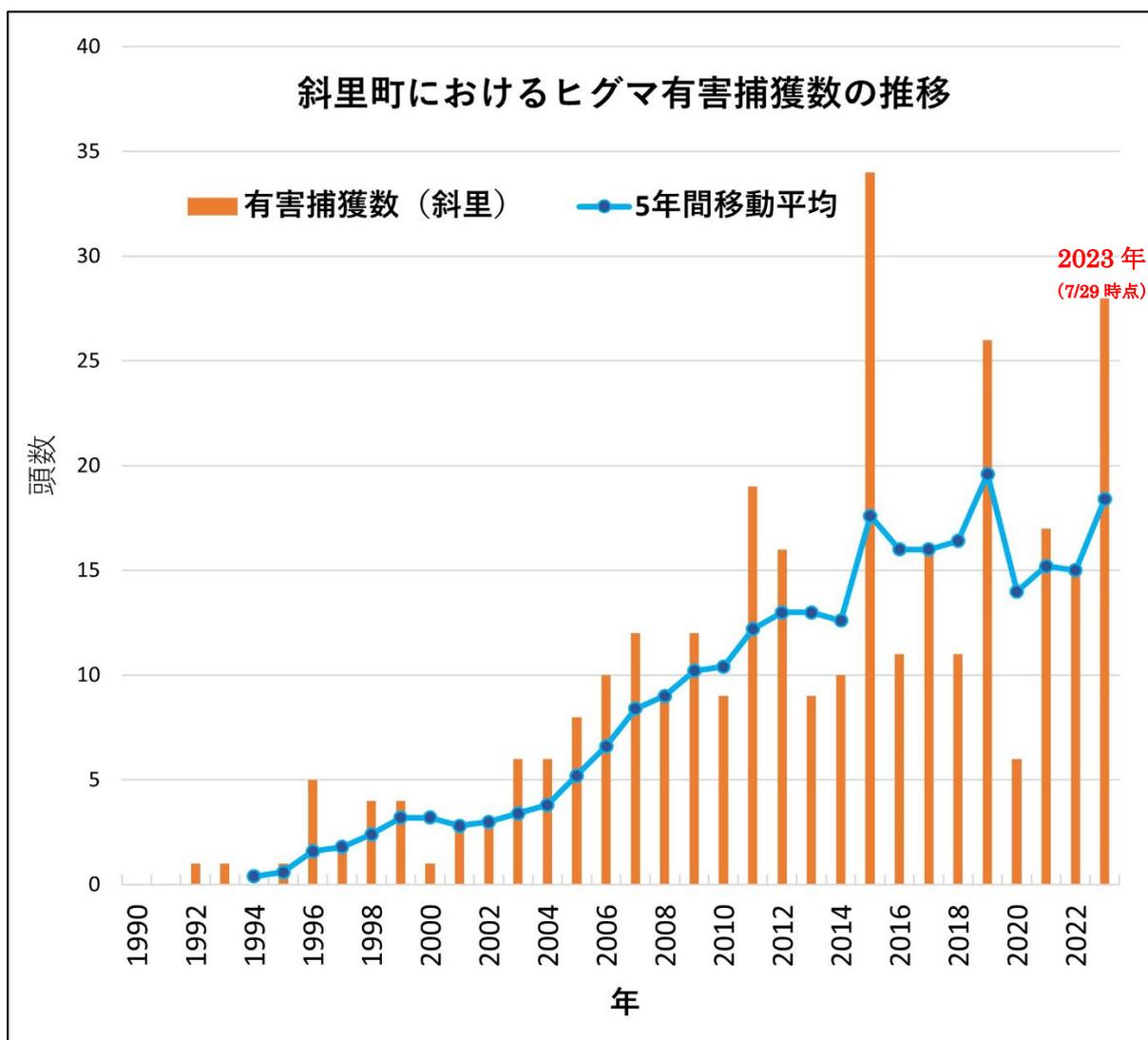


図 3. 斜里町におけるヒグマの有害捕獲数の推移. 青色の折れ線は、その年から過去 5 年間の有害捕獲数の平均値を示す (移動平均値).

2) 問題個体の発生状況

①国道 334 号知床横断道路周辺で確認された車両に手をかけるヒグマ

昨年度 (2022)、知床横断道路でヒグマが車両に手をかける事例が 8 月から 10 月にかけて複数発生した (写真 1)。当該個体への対応として、夏期に知床横断道路の羅臼町側で有害捕獲を実施したが、捕獲には至らなかった。さらに冬期通行止めの国道 334 号線知床横断道路にて当該個体の有害捕獲を実施したが、捕獲には至らなかった。

今年度においても、斜里町の国道 334 号プユニ岬付近の道路沿線において、4 月 9 日に車両ボンネットに手を掛ける亜成獣サイズのヒグマが確認された (写真 2)。また、5 月 30 日には知床横断道路で車両を追いかける亜成獣サイズのヒグマが確認され、6 月 5 日には知床横断道路の羅臼町側でも、知床横断道路の羅臼湖入口～知床峠の区間において、車両に手をかける亜成獣サイズのヒグマに係る目撃情報が観光客から寄せられた (表 3)。

外見的特徴や行動傾向から、いずれのヒグマも昨年度に知床横断道路で頻繁に車両に手を掛ける行動をとった問題個体と同一の可能性が高いと考えられた。その後、6 月 8 日に知床横断道路

の羅臼側で対策員が乗車している車両に向かって移動するヒグマが確認された。当該個体の特徴から、車両に手をかけるヒグマの可能性があり、人を避ける様子も見られなかったことから、捕殺された。後日、DNA解析により、車両に手をかける問題個体である可能性が高い個体であることが分かった。その後、同様の事例は発生していない。



写真 1. ドアミラーにつかまり立ちをする問題個体（2022.10.8 一般撮影）

表 3. 国道 334 号道路沿線での危険事例の発生状況

発生日時	町域	ヒグマ構成	発生状況
4月9日 17:05	斜里町	単独亜成獣	プユニ岬付近の道路上で、車両ボンネットに手を掛ける
5月30日 7:55	斜里町	単独亜成獣	知床横断道路 24km ポスト付近の道路上で、車両を追いかける
6月5日 12:20	羅臼町	単独亜成獣	知床横断道路 16 kmポスト付近の道路上で、車両に手を掛けた

②知床自然センター周辺の遊歩道における危険事例の発生状況

4月21日16:40頃、森づくりの道開拓小屋コース付近にて利用者が単独亜成獣～メス成獣サイズのヒグマにストーキングされる事例（行動段階3）が発生した。

利用者がヒグマに気が付いた時点で、ヒグマは利用者のいる方向へ走ってくる場所であった。利用者は声出しをしながらゆっくりと開拓小屋コース方向へと後ずさりをしたが、利用者との距離2mほどまでヒグマが接近してきたため、クマスプレーを噴射した。スプレーを噴射した際にヒグマは方向転換したが、その後利用者を再度ストーキングした。

この事例を受けて、開拓小屋コースは4月30日まで閉鎖し連日自動撮影カメラや踏査による調査を行ったが、同様の事例は認められなかった。

4月28日9:00頃、フレペの滝遊歩道にてヒグマの目撃情報を受けた対策員が現地調査を行っていたところ、利用者パスカウンター付近にて単独亜成獣サイズのヒグマに遭遇した。当該ヒグマは対策員に気が付くと片手で地面をたたき、対策員へ向かってくるような素振りを見せた。開拓小屋コースと同一の個体か否かは不明である。

③羅臼岳登山道における危険事例の発生状況

5月5日、羅臼岳登山道オホーツク展望から50mほど登った地点で、距離3～5mの至近距離で登山者が登山道脇の笹藪にいる単独亜成獣サイズのヒグマと遭遇した。ヒグマは驚いた様子で唸り声をあげ、登山道上に現れた（登山者に接近する形となった）ため、クマスプレーを噴射した。ヒグマにスプレーが命中したと思われるものの、全く逃げる素振りを見せなかったため、登山者は後退して下山した。

また、5月7日にも同一の登山者がオホーツク展望下（標高420m地点）にて単独亜成獣サイズのヒグマと遭遇、50m程離れていたが唸る様子を見せた。その後登山道から外れ見えなくなったという事例が発生した。

これらの事例を受け、関係機関と協議のうえ5月9日より羅臼岳登山道入口（岩尾別温泉）にヒグマの注意喚起看板を設置した。

④知床岬地区における危険事例の発生状況

7月20日、知床岬地区の羅臼側である赤岩地区の台地上で人に対してつきまとう行動を繰り返す単独亜成獣サイズのヒグマが確認された。声掛けや手たたきにも反応せず、人を忌避するような行動は確認されなかった。管理計画上、このヒグマの行動は段階3に該当し、当該場所はトレッキングルート（ゾーン2）であったため、関係機関と協議した結果、捕殺対象個体と判断された。その後、7月27日に当該個体を赤岩地区の台地上で再発見したため、捕殺した。